



<https://www.gerodontology.jp/>



日本老年歯科医学会 公式 X



本紙に掲載されている本会オンライン事業の画像は、本会理事長が撮影を許可した広報委員会によるものです。本会オンライン事業に関するコンテンツの複製、その利用等は、目的の如何および個人利用を問わず、本会理事長が許可した場合を除き一切禁止しております。



News Letter

No.63

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2026年3月31日発行

【本号のトピックス】

第37回学術大会がいよいよ6月開催! / 日本歯科医学会会長賞受賞報告
口腔機能の重要性を伝える啓発動画の制作と公開 / 研修会・セミナー報告
新規 専門医認定者の声 / 支部だより(群馬支部)

第37回学術大会のご案内 #JSG26 たべるよろこび つづくしあわせ

大会長：池邊一典

(大阪大学大学院歯学研究科有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座教授)

日本老年歯科医学会第37回学術大会(#JSG26)の開催が近づいてまいりました。本大会のテーマは「たべるよろこび つづくしあわせ」です。ECG-JSG 交流 10 周年を記念した国際シンポジウムをはじめ、特別講演、各種シンポジウムなど、多彩で実践的なプログラムを企画しております。老年歯科医学の最新知見と臨床に役立つ情報に触れていただける充実した3日間となる予定です。皆様お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。



会 期：2026年6月12日(金)～14日(日)
会 場：大阪国際会議場(グランキューブ大阪)
事前参加登録：2026年5月26日(火) 12:00 まで
直前・当日登録：2026年5月26日(火) 12:00 ～
6月14日(日) 15:30

当日の現地会場での登録は行いません。WEBからのオンライン登録、決済をお済ませのうえ、ご来場ください。

学術大会 WEB サイト：<https://jsg37.umin.jp>



いざ大阪へ!





本会名誉会員の水口俊介先生が日本歯科医学会会長賞を受賞 !!

本会名誉会員および前理事長の水口俊介先生が、歯科医学・医術の研究に成果を収め、歯科医学・医療の向上に特に顕著な貢献があったと認められる者を顕彰する「令和7年度日本歯科医学会会長賞（研究部門）」を受賞しました。

2026年2月17日、歯科医師会館にて表彰式が執り行われ、プラーク（表彰楯）とメダルが贈られました。水口先生、おめでとうございます。



左から、日本歯科医学会 小林隆太郎会長、水口先生（日本歯科医学会ご提供）

口腔機能の重要性を伝える啓発動画の制作と公開

広報委員会委員長 伊藤誠康

本学会では、Foundation Nakao for Worldwide Oral Health（中尾世界口腔保健財団）の助成を受け、一般市民に口腔機能の重要性を伝えるショートムービーを制作しました。本動画はすでに本学会ホームページに「口腔機能低下啓発動画」として掲載しています。動画は英語で制作し、日本語、中国語、韓国語、タイ語のテロップを付した版を、本学会 YouTube チャンネルにて順次公開する予定です。

本取り組みは、日本のみならず世界各国の一般市民に対し、口腔機能およびその低下への理解と関心を高めることを目的としています。さらに、この啓発活動を通じて、特にアジア地域の歯科医療従事者や老年歯科医学研究者に対し、高齢者の口腔機能に関する研究の重

要性を広く発信し、老年歯科医学の発展につながることを期待しています。会員の皆様におかれましても、本動画の周知・普及にご協力いただけますと幸いです。



第18回高齢者医療臨床研修会報告

研修委員会委員長 小野高裕

2026年1月16日（金）に標記研修会をオンラインで開催いたしました。今回のテーマは「高齢者歯科診療に関わる主な全身疾患のエビデンス」で、講師は日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授の米永一理先生にお願いいたしました。当日は83名の参加がありました。米永先生は歯科医師と医師の両方のライセンスをお持ちのためそれぞれの立場を熟知されており、有病高齢者の歯科治療にあたって留意すべき基本事項だけでなく、医科歯科連携のヒントとなる情報も交えて、糖尿病と高血圧症の専門学会によるガイドライン最新版について解説いただきました。



講師の米永先生（上）と小野研修委員長

第19回高齢者医療臨床研修会報告

研修委員会委員 石田 健

2026年1月30日(金)、研修委員会主催で第19回高齢者医療臨床研修会をオンラインにて開催いたしました。

今回のセミナーでは、講師に藤田医科大学医学部連携地域医療学の草島邦夫先生をお招きし、「在宅医療における食支援を中心とした多職種連携：総合診療医が歯科に期待する役割」と題してご講演いただきました。

当日は84名の参加があり、盛況のうちに終了いたしました。セミナーでは総合診療医の視点から、「噛んで食べる」喜びを取り戻すための多職種連携のポイントについて実例を交えて解説いただきました。

総合診療医として歯科に対する熱い期待をお話いただき、参加者からも多くの質問が寄せられ、在宅歯科医療への新たな一歩を後押しされた貴重な機会となりました。

Take-Home Message

- ① 食べる＝栄養＋ADL&QOL向上＋喜び
口腔ケアと適切な情報により、実現する
- ② 歯科専門職＝食支援専門家
「飲み込む」だけでなく、「噛んで好きな物を食べる」まで
- ③ 三位一体の支援が要
総合診療医・歯科・介護の連携



図を用いてわかりやすくご講演いただきました

第20回高齢者医療臨床研修会報告

研修委員会委員 本川佳子

2026年2月27日(金)、第20回高齢者医療臨床研修会をオンラインにて開催しました。日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニックの管理栄養士である尾関麻衣子先生を講師に迎え、「歯科と栄養がともに支える高齢者の『食べる』と暮らし」と題してご講演いただき、計80名の参加がありました。

尾関先生からは、歯科クリニックに勤務する管理栄養士の視点で、どのような点が連携にあたって重要か、協働して地域高齢者の食べるを支えるためには?など詳しくお話していただきました。最後には「歯科と栄養の連携による食支援が、地域で当たり前のように実践され

る仕組みをとともに作っていければ幸いです」とのお言葉があり、栄養管理における多職種連携の重要性を再認識することができ、非常に有意義なセミナーとなりました。



講演中の尾関先生

第21回高齢者医療臨床研修会報告

研修委員会副委員長 潮田高志

3月13日(金)に第21回高齢者医療臨床研修会がWebにて開催されました。今回の講演では、仙台循環器病センター循環器内科の植松庄子先生より「最近の循環器疾患診療と歯科診療を行う際の留意点」の演題で、循環器疾患にかかわる基礎的な内容からFantastic 4による心不全治療や最新のペースメーカー、歯科診療時のリスク評価から局所麻酔薬の使用にかかわる内容まで幅広くお話をいただきました。精力的に臨床を行っている循環器内科専門医からのお話を伺える貴重な機会であり、質疑応答も制限時間いっぱい

使って活発に行うことができました。当日の参加者は119名であり、多くの方が関心を示す内容になったと感じられる研修会となりました。

最近の循環器疾患診療と 歯科診療を行う際の留意点

一般社団法人宮城県成人病予防協会 仙台循環器病センター
循環器内科 植松庄子



研修会では活発な質疑応答が交わされました



新規 専門医認定者の声

松村香織先生

(公立八女総合病院歯科口腔外科)

私は現在、急性期病院で口腔外科を中心とした診療を行っています。卒後は母校の口腔外科学講座に十数年在籍した後、2018年から高齢化の進んだ地域にある現在の病院に転籍し、高齢者に関する知識の必要性を痛感したため、日本老年歯科医学会に入会いたしました。



専門医の筆記試験は高齢者医療に必要な摂食嚥下や補綴、社会的背景などの知識を問うもので、口腔外科中心の診療をしてきた私には少々難易度が高いものでしたが、新しい知識を習得する良い機会になったと考えております。今後も老年歯科専門医としてさらに研鑽を積んでいく所存です。

赤木郁生先生

(福岡県・医療法人社団秀和会 小倉南歯科医院)

開業医の勤務医として外来および訪問診療にて高齢者歯科医療に携わり、日々全身疾患や生活背景を踏まえた包括的な診療を常に意識してきました。症例報告書では、医学的リスク評価と多職種連携、QOL向上への工夫を具体的に示した点を重視しました。筆記試験は国試の高齢者分野の範囲を中心に勉強しましたが、臨床的判断力が問われる内容で、日常診療の積み重ねの重要性を再認識しました。今後は専門医として、地域に根ざした高齢者歯科医療の質の向上に貢献していきたいと考えています。



續木アナスタシア先生

(東京都・こばやし歯科クリニック)

ベラルーシで約6年間勤務後、東京医科歯科大学大学院に留学しました。大学院で歯科訪問診療を見学した際、在宅でも高度な治療が行われていることに感銘を受けて自分も携わりたいと志しました。



結婚・出産後、日本の歯科医師国家試験に合格し再スタートを切りました。子育てとの両立に戸惑いながらも、専門医を目指し臨床と勉強を行いました。日本の老年歯科医学は、世界的にみても高い水準にあると思います。今後は歯科訪問診療にて活躍できるように精進したいと思います。

鈴木宏樹先生

(福岡県・医療法人福和会 別府歯科医院)

私は地域歯科診療所に勤務し、外来診療と訪問診療の双方に携わっています。どちらも高齢者を診療する機会が多いため老年歯科医学を学んでいます。会場で試験を受けるのは緊張もしましたが、専門医試験に向けて準備することは、新たな知識を得る非常に良い機会となりました。今後も老年歯科医学への学びと研鑽を重ねてゆきたいと思っています。





萬田陽介先生

(岡山大学学術研究院咬合・有床義歯補綴学分野)

この度は専門医にご認定いただき、心より感謝申し上げます。私は大学病院に勤務しつつ、週に一度は岡山県北部の地域医療に従事しております。都市部と地方の差を毎週肌で感じ、その乖離を埋めるべく老年歯科医学の研鑽を積んできたことが、今回の成果につながったと考えています。



試験等の過程は、自身の能力・価値観を俯瞰する貴重な機会となりました。先人の知見を継承し、次世代の歯科医療に還元できるよう、今後も一層精進してまいります。

西尾健介先生

(日本大学歯学部歯科補綴学第I講座)

この度、老年歯科専門医を取得することができ、誠に嬉しく思っております。超高齢社会を迎えた我が国において、高齢者歯科学に基づく専門的な知識と臨床能力はますます重要性を増しています。専門医試験に向けた研鑽を通じて、高齢者の全身状態や生活背景を踏まえた歯科医療の重要性を改めて学びました。今後は、専門医として得られた知識と経験を臨床・研究に活かし、高齢者のさらなる健康長寿に貢献していきたいと考えております。



玉井斗萌先生

(特定医療法人研精会 稲城台病院)

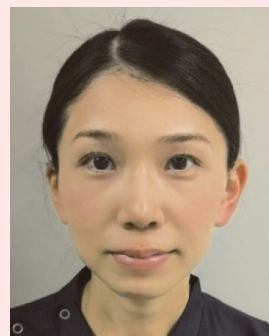
私は精神科病院に勤務し、歯科訪問診療においても高齢者歯科医療や摂食嚥下リハビリテーションを多職種と連携して行っております。症例報告書の作成はこれまでの臨床を振り返る貴重な機会となり、筆記試験への学習を通じて知識の再確認と新たな習得ができました。今後は老年歯科専門医として、地域医療に貢献しながら老年歯科医学の発展に寄与し、さらなる研鑽を積んでいく所存です。



高橋育美先生

(日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科)

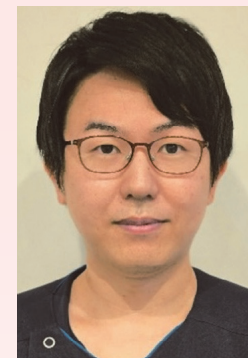
私は、大学病院に所属し口腔がん患者への診療や外来・訪問診療等において、摂食嚥下リハビリテーションに従事しております。症例報告では、治療方針の根拠となる客観的評価や所見を正確に記載することを意識しました。筆記試験では高齢者の歯科治療や医学的知識が求められ、難易度が高く感じましたが、学び直しする良い機会となりました。今後は老年歯科専門医としての自覚を持ち、日々研鑽に励みながら多職種との協働を図ってまいります。



森田 達先生

(近石病院歯科口腔外科)

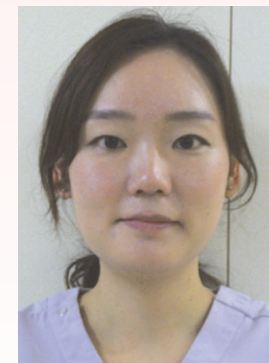
研修医の頃から病院歯科が大好きで、大学院卒業後は現在の病院で高齢者の摂食嚥下リハビリテーションに携わってきました。脳血管疾患や誤嚥性肺炎を契機に食事が困難となった患者さんが、再び口から食べられるよう支援できることに大きなやりがいを感じています。今回、専門医試験に向けて症例をまとめたことで、これまでの診療を見直す良い機会となりました。今後も地域の先生方と連携しながら、「食」を支える医療に取り組んでまいります。



長澤祐季先生

(横浜いずみ台病院歯科)

現在、地域包括ケア病棟を有する病院歯科に勤務しています。日々の臨床では、摂食嚥下リハビリテーションも含め多職種との連携の機会が多く、知識の整理と自身の専門性を高めるため老年歯科専門医の取得を目指しました。症例報告作成を通じて、医学的背景のみならず、生活環境や QOL を含めた包括的な視点の重要性を改めて認識しました。今後は研鑽を重ね、地域医療に貢献していきたいと考えています。



オンライン歯科衛生士セミナー報告

歯科衛生士関連委員会委員 中山良子

2026年2月11日(水・祝)、第14回歯科衛生士関連委員会主催セミナーをオンラインにて開催いたしました。今回は「リハビリテーション・栄養・口腔の三位一体における歯科衛生士の役割」をテーマに企画しました。まず阪口英夫先生(医療法人永寿会 陵北病院)より、三位一体の取り組みの経緯や基礎知識についてご講演いただいた後、折出由起先生(医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院)より、回復期における歯科衛生士の口腔健康管理や多職種連携について、症例を通して実際の取り組みをご紹介いただきました。当日は74名が参加し、盛況のうちに終了いたしました。歯

科衛生士の役割を改めて認識するとともに、今後のさらなる活躍への期待が高まる有意義なセミナーとなりました。



左上：折出先生，右上：中山委員，中央下：阪口先生

2025年度 群馬支部主催研修セミナー開催報告

群馬支部長 鎌田政善

2026年1月18日に群馬県歯科医師会館において、群馬県歯科医師会の共催と群馬県ならびに群馬県歯科衛生士会の後援により、2025年度日本老年歯科医学会群馬支部主催の研修セミナーを開催いたしました。

今回は、北海道医療大学歯学部生体機能・病態学系臨床口腔病理学分野の教授である安彦善裕先生をお迎えして、「高齢者における歯科心身症—現状・課題と対応—」の演題でご講演をいただきました。高齢者に多くみられる唾液分泌の低下や、義歯の不適合や舌痛症などを訴える方のなかには、孤立や不安などの要因が加わり、さらに口腔機能低下と相まって心身症的な訴えをする方が増えているなかで、うつや不安や認知症などが背景となった、いわゆる口腔領域の不定愁訴についての基礎的な考え方と実際の臨床についてのご講演であり、明日からの臨床にとても役立つ内容でした。

新年早々の日曜日ということもあって、参加者は46名とやや寂しい感じでしたが、参加者からの質問も多数あつ

て予定時間を30分以上延長するなど、盛会のうちに無事終了することができました。



安彦先生(右から3人目)と群馬支部スタッフ

編集後記

春の訪れを感じる季節となりました。会員の皆様は、日々の診療や教育、研究に忙しい毎日をお過ごしのことと思います。本号では、6月に開催される第37回学術大会のご案内をメインピックスとしてご紹介しました。現在、お得な事前参加登録を受付中で、本大会へのご登録により、ECG-JSG 10th Anniversary International Symposiumにも参加できます。臨床での工夫に加え、研究成果や課題を気軽に共有し、活発な議論や交流が広がる機会となれば幸いです。(高野智史)

発行人 平野浩彦
編集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会
事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
駒込TSビル (一財)口腔保健協会内
電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341
E-mail jsg@kokuhoken.or.jp

